

無料

ご自由にお取りください

O.S.P. JOURNAL



Keep it on the down low!!

—並木敏成が語るあのルアーの真実—
ブリッツ

The Kotaro's Maxims
ワーミングの極意を伝授!!
～ドライブガーリー4.5"～

DOUBUT!

ドライブシリーズの New Face!!

DoLive curly 4.5"

川村光大郎が使い方を本紙で解説!!



O.S.Pが誇る
三人のスペシャリストが“旬”を説く!
三人の賢者はこう釣る!!
北山利通 / 木村翔太 / 鈴木隆之

O.S.Pクロニクル
O.S.P独自の機構を44mmのボディに凝縮
タイニーブリッツMR



ワーミングの極意を伝授!!

ドライブシリーズのラインナップに新たに加わったドライブカーリー4.5”には、これまでのカーリーテールの概念を覆すさまざまなギミックが凝縮されている。真夏のカスミ水系を舞台に、その特徴と使い方を徹底解説!

川村光太郎がドライブカーリーを動画で解説!!
https://youtu.be/qQ_gjohzoQ4 こちらも合わせてご覧ください。



MAXIMS

今回のロケにおいて光太郎は、ドライブカーリーのリグを適材適所で使い分けた。メインはスナグレスネコリグ。根掛かりに強いだけでなく、ベイトフィネスタックルで使用することで、通常のライトリグでは思わづためらうようなカバーでも、強気の攻めを展開。また橋の下などの広いシェードでは、その中のどこにバスがいてもおかしくないため、線の釣りで探るために、ライトキャロでチェック。もちろんここはスプリットショットリグでもいい。さらにカバーに覆われた流入河川では、足元のアシやブッシュを撃つためにライトテキサスをチョイス。先述したとおり、線の攻めはもちろんだが、ピンスポットでの点の釣りも得意とする、ドライブカーリーの特徴を最大限に生かす攻めで、猛暑に狂うカスミ水系を攻略。行く先々で確実に釣果を重ねていった。



橋が形成する広いシェードでは、線の釣りでチェック。ライトキャロやスプリットショットのズル引き、およびスイミングがいい。「シンカーを持ち上げるように泳がせる。その後、シンカーがトンと着底したあとにワームがフワッと漂う。これで食わせませす」と光太郎



水中から伸びる枝などは、その中層にバスがサスペンドしていることも考えられる。ここではスナグレスネコリグのフォールで誘う。1.3~1.8gがメインだが、ときには0.45gという軽いネイルシンカーでもテールがしっかり動くドライブカーリーの、メリットを最大限に引き出す攻めだ



足元のカバーにはライトテキサスを入れていった。スナグレス性に長けるのはもちろん、テールに設けた小さな複数の突起がテール同士の絡み付きを防いでくれるため、思った以上に小さな隙間に入り込んでくれる。これでカバーにまわりつくストレスを解消した

一点シェイクで食わせられるドライブカーリーのヒミツ

これまでのカーリーテールは細かなシェイクでは、テールが曲がったままでほとんど機能していなかった。しかしドライブカーリーは繊細なロッド操作にも機敏に反応し、2枚のテールが複雑に、ジャレあうように動く。また、テールだけでなく、同時にボディも動いていることが、釣れる理由のひとつでもある。「ドライブクローラーのネコリグで、シェイクしながらズル引いてくると、テールだけでなくヘッドを左右に振りながら、まるでドジョウがボトムをまさぐるような動きを見せます。その動きの融合が釣れる理由なんです、それはドライブカーリーにも同じことが言えるのです」と光太郎。その秘密は素材硬度の選定とセミリングボディにある。リングの深さを深くすればするほど、ワームに芯がなくなり、躍動感のあるレスポンスは失われてしまう。しっかりとアクションしながらも、水を掴む。この両立を実現したのが、セミリングボディなのだ。「ドライブクローラーでの経験が、ドライブカーリーの開発に活かしましたね」。

MAXIMS

MAXIMS

覚えておきたいフックのセット方法
フックを確実にまっすぐ刺すこと!!

ドライブカーリー4.5”と抜群の相性を誇る、スナグレスネコリグ。開発を手掛けた光太郎も「ネコリグで落としてヨシ、誘ってヨシで使えるように設計しました」というように、テスト段階からこのリグで、数々のバスをキャッチしてきている。ではここで、フックをどうセットすればいいのかについて解説しよう。光太郎がスナグレスネコリグで使用するのは、FINA N・S・Sフックの1/0もしくは2/0。ドライブカーリーのボディには、フックを刺しはじめる位置の目安となるポッチが設けられているので、それを目印にセットするとい。スナグレスネコリグの場合、フックはヘッド側一番前のポッチに刺す。そこからほぼ真下に向かってフックポイント抜き（光太郎の場合は、真下にあるポッチのちょっと後ろ）、次にフックポイントをどの位置に刺すのか、必ずあてがって確認をする。ちなみにドライブカーリーのハチマキ部分は、N・S・Sフックが収まる幅に設計されていることを覚えておこう。フックポイントを入れる位置を覚えたら、あとはセンターラインに沿ってまっすぐに刺し、フックポイントは出さずに埋め込めばOKだ。



フックはボディに設けたポッチを目印に刺す。スナグレスネコリグの場合、ハチマキの前寄りにあるポッチから刺しはじめる。ほぼ真下にフックポイント抜き



フックポイントを下に抜いたら、今度はフックポイントを刺す位置をワームのボディ内部に隠したまま。O.S.P動画でも解説しているので、こちらもチェック



センターラインに沿って、まっすぐにセットする。フックポイントはワームのボディ内部に隠したまま。O.S.P動画でも解説しているので、こちらもチェック



ネコリグでの一点シェイクや、シェイクしながらズル引きしたとき、テールだけでなく、ボディもなまめかしくクネる。その秘密は素材の選定とドライブクローラーで採用したセミリングボディにある。水をしっかりと掴みながら、アングラーが与えるアクションに機敏に反応し、複雑な動きを生み出す

ピンスポットでの誘いを可能にした新生カーリー

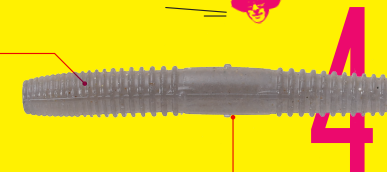
世にカーリーテールワームは数あれど、その多くの弱点はシェイクにあった。細かいロッド操作へのレスポンスはイマイチで、ピンスポットでの誘いは苦手。逆にスイミングやフォール、そしてズル引きなどへの反応はよく、線の釣りを得意としてい

た。今回、O.S.Pがリリースしたドライブカーリー4.5”は、2枚のカーリーテールのフォルムと素材にこだわっただけでなく、ボディにもひと工夫を加えることで、新たなアクションを持つカーリーテールを生み出すことに成功した!

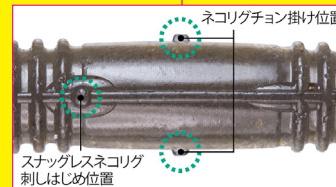


新生ドライブカーリーを徹底解剖

MAXIMS



水をしっかりと掴みながら、反発力のあるくねりを実現したセミリングボディ。このリングの溝が深くなると動きが柔らすぎてしまい、理想的なアクションを生まない。また横扁形状のボディはツインカーリーとの相乗効果によって、あらゆるリグにおけるスイミング姿勢の安定をもたらす。素材には他のドライブシリーズと同様、本物のエビとイカの粉末を配合している



フックセッティングの目印がこれ。スナグレスネコリグはセンターライン上にあるポッチを目印に、ノーマルのネコリグ(チョン掛け)ではボディの左右に設けられたポッチにフックをセットする。これで簡単かつ正確にフックをセットすることができ、ひいてはベストなアクションを引き出すことにつながる



ジャレあうような複雑な動きを生むツインカーリーは、フォルムはもちろん、長さや肉厚にもこだわって設計。0.5g未満のネイルシンカーでもしっかりアクションするよう、テール外側にかけて厚みが増している。「軽いシンカーでもテールを動かしたいなら、より薄くすればいい。でもそれだと、水押し感がなくなってしまいます。だからテールの外側に厚みを持たせて、水押しにトルクを出しているのです」

MAXIMS



経験と実績がモノを言う!
日没前のチャートは絶対!!

近づく日没。薄暗くなってきたタイミングで、光太郎が手にしたのはドライブカーリーのグリバン/チャート。「ライムチャートと迷ったんですけどね、ロールしたときのチラチラした明滅がいいかな、と思って」と光太郎。薄暗くなり、人間だけでなくバスの視界も利きにくくなるタイミングでは、チャート系が明らかに効くという。前号の同コーナーでも、ドライブクローの章で解説したが、経験と実績がモノを言うチャート系は、なくてはならない存在である。「ツートンが動くという感じで明滅するんです。一日の締めくくりはこれですね!」



日没前に限らず、暗いときは迷わずチャート系をチョイス。黄色いエサ(もしくはベイト)など存在しないなか、これらカラーで光太郎は十分なほどの実績を上げているという。ロール系の動きをするものには明滅効果を生むツートンカラーもおすすめだ

カバーの中でも多彩な誘いが可能シェイクでも、フォールでもヨシ!!

MAXIMS

あらゆるアクションにいい反応を見せるドライブカーリーは、カバーの中でもバリエーション豊かな誘いを見せる。シェイクはもちろんだが、リフト&フォールでも効果的。狭い隙間に潜り込むように入っていく、しっかりと動いて確実に誘ってくれる。「1.3~1.8gのネイルシンカーを多用しますが、3.1~3.5gにすればもっと入れやすくなり、リアクション効果も高まる。テール表面の突起が利いて、テールが巻き付いて落ちないってことは意外に少ないです。どんな場面でも動いてくれるから、バイトロスがないことこそ、このワームに求めた最大のコンセプトです」。



わずかな隙間にも、スルッと入っていくだけでなく、カバーの中では表情豊かな動きを見せてバスにアピール。スナグレスネコリグではどうしても入らないときは、ライトテキサスにスイッチ。これまで取りこぼしていたバイトも、これで確実に獲れる!!

C O L U M N

本当に釣れるモノ作り

釣れるワームを作るために必要なのは、動きだけではなく、シェイプと素材がマッチしていないとダメだと光太郎。いいシェイプが完成しても、それを生かすための素材選びが大切で、逆に素材はベストと選んできても、シェイプの煮詰め方が甘い理想の動きには届かない。また、これだけハイプレッシャー化が進む中で、場所の力で釣れることは少なく(人が知らないようなノンプレッシャーの場所がない)、その日、そのときに最適な場所選定と、状況に合ったルアー。しかもそれが食わせる力に特化していないと、釣れない時代になってきた。そんなカスミ水系で定番化しているものは、間違いなく釣れるルアーである。たくさんのアングラーのジャッジを受け、本当に釣れるものしか残らない。「今のメジャーフィールドで『これは釣れるね』、と言われるものしかこの先、残りません。これからも常に基準はそこ。実際に釣れることです」。光太郎が生み出す、これからのアイテムに期待したい。

解説＝富村貴明

読

説

O.S.Pバス02ビートを用いて
ホームグラウンドのカスミ水系のトーナメントで
数々の入賞経験を誇るO.S.Pスタッフの富村貴明が
秋に有効なバスベイトゲームを徹底解説!!



使い方



もう一匹を釣る富村貴明のシークレット

ワイヤーベイトは擦れや金属疲労により強度が落ちてきます。また、フックは交換できません。02ビートはハマるとキロフィッシュが日に2ケタも連発するような時があります。その途中で壊れてしまったらもったいないので、ある程度、使い込み、金属部品の接点を馴染ませた状態の02ビートを作ってスベアとして携帯しています。ハマった時は「もう一匹」どころではありませんので…(笑)。

時期で言えばポストスポーンからの回復期。夏場はもちろんですが、晩秋、ベイトフィッシュの泳層が深くなるまでが有効なシーズンです。ベストタイミングを言えばベイトが水深1mくらいまでのレンジに多く集まっている時。ベイトはサカナに限らず、エビや虫、それらを捕食する小魚やカエルなど。また、曇天模様的时候も有効です。気圧が低めで湿度が高く、今にも雨が降り出しそうなタイミングは◎。水面に浮くルアーに出るがノラない時、バイトするヘッド部が水面下であるバスベイトが効果的なシーンも少なくありません。



有効になるタイミング



自分の好みと言うか、一番釣っているカラーはズバリ！ゴールドベラのインパクトタイムチャートです。朝夕マツメの時間帯や、曇天模様の日差しの時は必ずチョイスします。日差しがあつてシェードを狙う時や水の色が白っぽい時は、ディファインブラックを選択。日差しがないが水はクリアに近いようであればナチュラル系、ミスバイトが多いときはホワイト系にチェンジします。

基本的な使い方

バスベイトはサカナが虫やエビなどのエサを捕食している様を演出しているルアーだと自分は思います。ヘッド&スカート部がエサにチョツカイを出しているサカナ、というイメージですね。そして捕食に夢中になっているサカナは無防備であることをバスもわかっている。ペンシルベイトやフロッグのドッグウオークアクションなども、そんな無防備なサカナを演出していると思います。だからこそキチンと動かさないといつてもいい。そんな、バスの本能をくすぐる要素がバスベイトにはあり、さらに02ビートは真鍮クラッカーサウンドで、ポイル祭りの演出を際立っています。具体的な使用方法として、なるべくロングキャストでプロダクティブゾーンの長くとれるように心掛けます。パンク際なら水が少しでもある所から引きはじめ、食わせる場所まで線で引っ張っていく。これが基本です。

カラーの選び方



02ビートとパピーの使い分け

02ビート、パピーはオリジナルモデルと浮き上がり具合などの使用感が似ており、アピール性能も引けを取りません。自重が軽くコンパクトなので、ボサボサの植物やツタ系のカバーが多いような所でストレスなく使えて、ショートディスタンスでテンポよく撃っていくときが定番です。それ以外はオリジナルを選びます。魚のサイズやベイトの大きさでの使い分けは基本的にはしっておらず、使い勝手を優先して選んでいます。



PRESENT!!!!

セットで1名様に!!

O.S.P ワークキャップ
モデル2
ジャガードカモ

O.S.P ライトパーカー
モデル2
グレー/ルサイズ

応募方法_希望者はメールにて、件名「O.S.P JOURNAL プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

- このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- このパンフレットの率直な感想
- このパンフレットに求める情報
- 釣り歴とホームグラウンド
- O.S.Pで好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2015年11月4日(水)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

event@o-s-p.net

個人情報について_ご提供いただきました個人情報は厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません(法令等により開示を求められた場合を除く)

お詫びと訂正_2015年8月に配布しました本誌におきまして誤りがありました。[VOL.8 NOVEMBER]となっていますが正しくは[VOL.7 AUGUST]です。ここに訂正しますとともに、ご迷惑をおかけした皆様にお詫び申し上げます。

毎日更新! O.S.Pのすべてがわかる!!
O.S.P公式ホームページ

www.o-s-p.net

O.S.P Lurefishing Facebookページ
http://on.fb.me/1ivloty

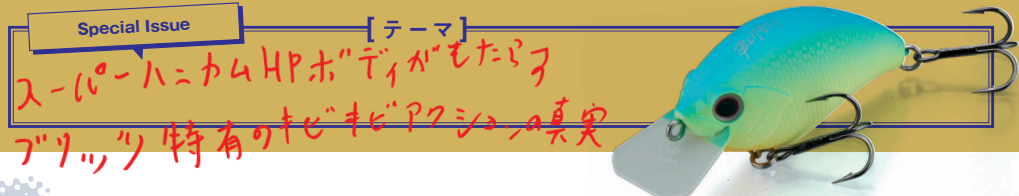
並木敏成の知られざる素顔が明らかに…!?
並木敏成オフィシャルサイト「THIS IS T.NAMIKI」
http://t-namiki.net/

並木敏成Official Site「THIS IS T.namiki」
更新情報 Facebookページ

http://on.fb.me/1iE8UiY

KEEP IT ON THE DOWN LOW!!

これは、ここだけの秘密と、いうことで…

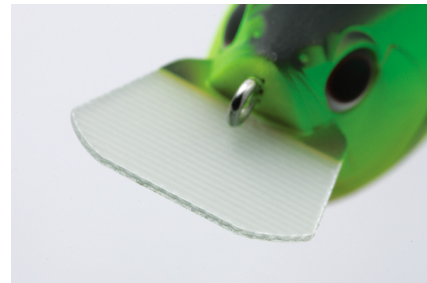


巻き物戦略の柱となるクランクベイト なぜ、ブリッツはこんなにも釣れるのか

いよいよ秋の巻き物シーズンということで、その柱となるクランクベイトについて話をしよう。自分がクランクベイトについて話すのであれば当然、ブリッツについてである。ブリッツをリリースして11年。今では多くのアングラーに支持されているが、それはブリッツが独自のさまざまな特徴を持っているからにはほかならない。そしてこれら特徴こそ、ブリッツが釣れる理由でもあるのだ。



例えばセミフラットボディによる、フラッシングや強波動効果をはじめとして、ガラエボリップによるハイピッチかつ高感度なアクションなどその特徴は



さまざま。しかしこれらは車で例えると、外観や装飾品、もしくはオプションパーツに当たり、エンジンとなる部分、つまり構造的メリットである特徴は、重心集中型の設計かつハニカムスーパー HP ボディにほかならない。これはいまだに多くのアングラーだけでなく、競合他社からも評価を受けているのは間違いない。

そこで今回は、スーパーハニカムHP ボディについて、少し掘り下げた話を展開しようと思う。

スーパーハニカムHP ボディを思いついたのは 空を飛ぶ飛行機の翼がヒントになっていた

このハニカム構造を思いついたのは、アメリカのトーナメントトレイルに参戦するために、飛行機に乗っているときだった。窓の外に見える飛行機の翼を見て「よくこんな鉄の塊が空を飛んでいるよな」と不思議に思っていた。そこで思い至ったのが、翼の構造。実際はハニカム構造のように六角形ではないのかもしれないが、強度を持たせながらも軽量化を図るとい、まるで障子のような仕



組みにヒントを得た。そしてアメリカのモートルに到着してから真っ先に電話を掛けたのはO.S.P. 開発担当のスタッフに、こんな構造のクランクを作りたい、と話したのを今でも鮮明に記憶している。

ところでみなさんは、「慣性モーメント」という言葉をご存じだろうか。簡単に説明すると、「回転のしにくさ、あるいは回転の止めにくさ」なのだが、実はこれはルアーにも大きく関係している。

さて、クランクベイトはリップを中心としたボディで水を受けて、その抵抗を逃がすために左右に動き出す、という仕組みはすでにご承知のことと思う。これによってウォブロールするのがルアーの泳ぎなのだが、この動きの中心が慣性モーメントの支点となり、ここからボディ側面が離れば離れるほど慣性の力は強くなる。また、その点が重くなればなるほど、同じように慣性の力は強くなるのだ。

この力をいかに弱くするかが重要で、レスポンスのいいルアーとは慣性の力が小さい。つまり、一方に動いたものを、素早くもう一方に戻そうとする力が働いている。すなわち、キビキビ動くルアーとなる。したがって慣性の力が大きければ大きいほど、動きはダルくなると考えられる。この慣性を弱くするためには、どうすればいいのか。

ボディ側面の外側を重くすると慣性は強くなってしまいますので、強度を保持しながらも軽量化を図った構造、つまりハニカム構造がここで出番となる。慣性モーメントを求めるときに「 $I=mr^2$ 」という式が使われるのだが、「m」は動く点の重さで、「r」は支点から「m」までの距離を表す。これがどういうことかという、「m」が軽くなればなるほど「I (慣性モーメント)」は小さくなり、「r」は2乗分。つまりボディの外側こそ、何よりも軽くすることで慣性モーメントを抑えるのである。

ボディの径、つまり2乗分動く「r」の数値は変えられない中で「m」を小さくするためには、ボディ側面を軽くするしかない。プラスチック製のクランクは中心に近いところは空気だが、「m」に当たる外側は重くなっている。バルサ製のクランクの



場合、中心に近い部分はもちろんバルサであり、空気よりも重い反面、外側は薄い塗装で軽くなっていることがとても有利に働く。そういった観点から考えられたのが、スーパーハニカムHP ボディなのである (図1参照)。

プラスチックとバルサの動きの差は 慣性モーメントによるものである

通常、クランクベイトにおいてプラスチックとバルサを比較すると (どちらも精巧に作られていることが前提)、バルサのほうがキビキビとハイピッチに泳ぐ。基本的にメインとなるウエイトはひとつで、そのまわりを囲っているバルサ素材は軽いものである (空気よりは重たいが…)。そしてバルサの外側は当然、塗装やコーティングが施されており、薄い壁ができあがっている。では、プラスチックはどうだろうか。外側は樹脂製の厚い壁で形成されており、その質量は当然、バルサよりも重い。さらに多くのプラスチックルアーはボディ内部にラトルルームの壁や重心移動のレールなど、樹脂の板が設置されている。これを慣性モーメントの式で考えてみると、プラスチック製クランクのほうが「I」の数値が大きくなるのがわかるだろう。数値が大きい、イコール、動きにキビキビさはなくなる。



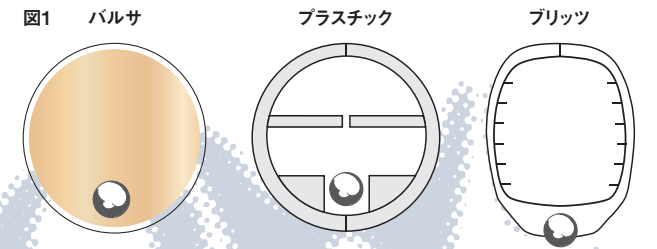
ちなみに搭載するウエイトも、浮き上がるスピードが同じと仮定したとき、バルサよりも小さいウエイトになる。ブリッツがこの世に誕生する以前、多くのプラスチックルアーはウエイトが1個ではなく、2~3個のものがほとんどだった。そんな中、ブリッツで採用した固定重心およびノンラトルはボディ内に間仕切りがなく、さらにはラインアイやフックアイをつけるための樹脂量も、横アイにしたことでその量を減らして軽量化。と同時に、ボディ内部の限られたスペースを有効に活用できるため、ウエイトを置きたい場所にきっちり配置することができた (図2および図3参照)。

難しい話をしてきたけれど、少なくともいえるのは、ブリッツに採用したハニカム構造は、ハイピッチなキビキビアクションを出すために、物理学的に理に適っているということ。例えばディーブクランクなら重く動きの悪いボディを、リップの大きさである程度カバーできたとしても、リップが小さいシャロークランクにおいては、絶対的に有利にルアーを作ることができる (ただし同じ潜行深度のクランクベイトであれば、ボディバランスを突き詰めて作ったほうがリップをひと回り小さくで

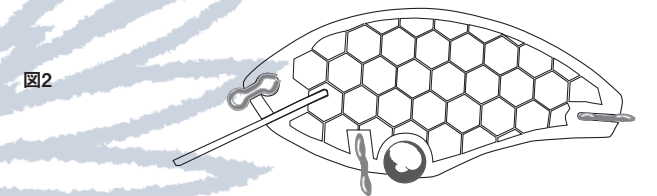
きるとか、引き抵抗を小さくできたり、キビキビ泳ぐなど有利になるのだが…)。

最後に、このスーパーハニカムHP ボディは、すべてのルアーにおいて有利に働くものではないことをお伝えしておこう。例えばペンシルベイトのように、動きの慣性が残っているからこそ、長い距離のスクーティングが可能になるものもある。そういうタイプのルアーにおいては、ボディの外壁をより厚くするほうがいい。当然、O.S.P では泳ぎのタイプやルアーのサイズによって、ハニカム構造を搭載するか否かを巧みに使い分けていることは言うまでもない。

ちなみに、このハニカム構造を考えた自分は学生時代、理科は満点だった。でも社会は… 聞かないで……!! では、ブリッツで巻き物の秋をご堪能ください。



それぞれのクランクベイトを、ウエイトの位置でカットした断面図のイメージ。バルサには塗装やコーティングの被膜がボディ外側に壁となって存在する。プラスチックはボディ壁面が肉厚であるばかりか、内部には重心移動のレールや、ウエイトが左右に動かないための壁などが設置されているため、必然的に重くなる。ブリッツはスーパーハニカムHP ボディによって肉厚を薄くすることができただけでなく、浮力の向上と軽量化を両立。また、メインウエイトを極限まで下げたことで動きの支点を一点に集中し、低重心化したことでハイピッチなウォブリングおよび、ハイピッチなローリングアクションを見せる



横アイにすることで樹脂量を減らし、ここでも軽量化につなげただけでなく、ボディ内の限られたスペースを有効に活用。これにより、ベストな位置にウエイトを配置することを可能にした





北山利通 @ 滋賀県・琵琶湖

ハイピッチャーMAX 3/4oz・TW
(キラールゴールド)

タフなときこそ強い釣りを!!

キムショー @ 茨城県・霞ヶ浦

ハイピッチャーMAX 3/8oz・DW
(スパークホワイトチャート)

スロー&アピールでベイトを狙う

鈴木隆之 @ 福島県・松原湖

ブリッツEX-DR
(ゴーストライトチャート)

赤土バンクでディーブクランク



琵琶湖、特に秋の北湖でオスメの巻き物は、間違いなくハイピッチャーMAX 3/4oz・TWですね! 出しどころは水深3.5~6.0mにある消波ブロック帯や取水塔などの単発の独立したストラクチャー、漁礁、そしてロックエリアなどです。そこに適度な濁りとカレントに加えて、ベイトフィッシュの存在という3つファクターが絡めば完璧! (笑)

秋は台風やゲリラ豪雨などによる急な増水や激しい濁りに見舞われることが多く、北湖のアイスレートストラクチャーを回遊する普段はそう簡単には口を使わない天才バスも濁りによって警戒心が薄れ、カレントの発生はバスやベイトフィッシュの活性を上げてくれます。ハイピッチャーMAXは、ハイピッチャーのコンセプトを継承しつつ、サイズアップによってアピール力を最大限に高めバイトに持ち込むことができます。濁りの中、少しでもスローに、そして強いフラッシングと波動でその存在を気付かせるにはダブルウィロー (DW) より、タンデムウィロー (TW) が有効と考えています。

カラーはキラールゴールド (S22) がオスメ。タフだと感じる状況になればなるほどフィネスに手が伸びがちですが、そんな時こそ強い釣りがハマる条件だと思います。琵琶湖に濁りが蔓延し、強力なカレントが出れば2kg超が連発することも珍しくありません!!



夏も終わって水温が下がり、バスもベイトも活発に動きはじめる時期になりました。そんな中、霞ヶ浦で必要不可欠なのがハイピッチャーMAXです。ここで「ハイピッチャーでもいいのでは?」と思う方もいるかもしれませんが、ここはハイピッチャーMAXならではの強みに注目します。それは何かというと、強いバイブレーションと、何よりも同ウエイトでハイピッチャーよりもスローに引いてくれるという点です。それ以上にスナッグレス性能の高さを生かしてストラクチャーをガンガン攻めていけるのは、最大のメリットと言えます。

これからの時期、狙いたいのはベイトフィッシュの多いエリア。ブレイクが寄っている場所やハードボトム、流入河川河口部などを積極的に攻めてください。あと、トレーラーフックは必須です。これがあるとキャッチ率が大幅に上がりますからね! ボクのフェイバリットのスパークホワイトチャートはチャートとホワイトの間色であり、アピールに繋がるティンセル付きでブレードもシルバーとゴールドの両方が装着されています。つまり、オールマイティなカラーです。迷ったときはこのカラーを使うべし! この秋はハイピッチャーMAXで、MAX級のバスを狙ってください!!

「今」最も効果的な釣り。



三人のローカルが見据える



裏磐梯エリアは、9月に入るとすっかり秋の気配が感じられるようになり、水温は下がりはじめ、一年の中で最も水位が下がる季節を迎えます。このような状況になれば、いよいよ巻き物シーズンの到来と言えるでしょう! 使用するルアーは主にブリッツ、ブリッツMR、ブリッツEX-DR、そしてハイピッチャーなどがオスメになります。

基本的な使い分けのキーになるのが「狙うレンジ」と「狙うボトムの質」です。この時期にベイトを追ってバスが入りやすい遠浅のシャローではブリッツ、ブリッツMRを使用し、同じエリアでグラスが生い茂って巻けない場合にはハイピッチャーを使用します。

そして意外と知られていないブリッツEX-DRの使い方は… 実は赤土のバンクで使用することなんです! 赤土のバンク周辺でのバスはベイトを追いながら移動していることが多く、回遊系のバスにライトリグで当てるのは、時間を要してしまうことが多々あります。こんなときは、スピーディに探れるハードルアーが非常に有利になりますね! ボクのオスメカラーとして「ゴーストライトチャート」です。ぜひともお試しください!



あなたなら、どうする? どうしてる?

釣りに行くための〇〇

【サカナが釣れなきゃ、おみやげで子どもを釣る。】

全国のお父さんアングラマー様。釣りに行きたくても、自由に行くこと、**かないません**よね? それは**釣り業界人**とて同じ。だから釣りに行く前には必ず、**こんなこと**、しているのです……

——プロスタッフ**谷口雅信**さんの場合

バス釣りやトーナメントに出られるのも、嫁さんや子供の理解があってですから、自分ができる日頃の家事を手伝うようにしています。洗濯物を干したり、掃除や買い物、あとは週末の子供たちの部活の練習や試合の送り迎えなどを、精力的にがんばってやっています。その効果が、トーナメントやブラクティスは気分よく送り出してもらえています。

ここまでではみなさんも普段からやっていることと思いますが、私はトーナメントで結果が出なかったときは、アイスクリームやお菓子など、子どもたちが喜びそうな甘いものを買って帰ります。お立ち台に上がることなく手ぶらで帰ると、子どもたちからの「ダメ出し」

が待っているからです… (笑)。

ここでおみやげの番です。まあ、早い話が「モノで釣れ!」です! 子どもたちには効果的で、釣り好きの息子は「次の試合でがんばればいいじゃん!」、娘からは「おお、魚好きだね、パパ」、嫁さんからは「試合で魚釣らんに、子供は釣るな〜」みたいな感じで、笑顔で迎えてくれます。

自分の釣り道具ばかり買うんじゃなく、たまには家族にケーキやお菓子などのおみやげでも買って帰れば、次の釣行も気分よく送りだしてもらえはるはずですよ。



O.S.P. クロニクル

開発担当者が語る、あのルアーの秘密。

第8話 // タイニーブリッツMR

フィールドから使い手、そしてタックルも選ばない。

O.S.Pが誇るクランクベイト、ブリッツシリーズ。オリジナルモデルが2004年に発売され、その後、ブリッツMRやブリッツMAX、さらにブリッツMAX DRをリリース。バジnkクランクシリーズも含めると、O.S.Pのクランクベイトだけで、水面から深層までを攻略できるようになった。

その後、よりラインナップを充実させるために、4mよりもっと潜るディープダイバーをはじめとして、ほかにもいろいろと求めるクランクはあったのだが、さまざまな要求の中から選ばれたのが小型クランク、つまりタイニーブリッツMRだった。

「タイニークランクと言っても、いろいろある。アメリカのトップカテゴリのトーナメントでウィングルアーに名を連ねていたものはその当時、国内でも多くのアングラーが使っていましたね。おかつ、ボートを問わず支持されていて、マッディだけでなく、クリアウォーターでも使われていました。開発に着手したとき、使用頻度が高くなるクランクになるのではないか、という思いがあったのを鮮明に記憶しています」と、開発担当は当時を振り返る。

狙いのアクションは、いかにもクランクベイト、というブリブリした動きのハイアピールなものではなく、マッディでもクリアでも、水の色を問わず使えるタイプ。またカバー、オープンは不問で、なおかつスローフローティング設定にし、ストラクチャーまわりでもじっくり探ることができる。こんなマルチな性能を持たせることをコンセプトに、開発はスタートした。

「シャッドの速巻きのような使い方も、クランクでありながらできる、という性能も持たせようと思いました。なおかつ、スピニングでもベイトタックルでも扱える。ベイトフィネスはもちろんですが、それだけじゃなくて、普通のMLクラスのロッドでも投げられるウエイトにしたい。グラスロッドで使っても、ブルブル感を得られる。そんなクランクベイトを求めました」。

しかし、これらの狙いをすべて取り揃えるには矛盾点も多く、ひとつの要求をまかなうと、別の要求がまかなえない。通常の開発および設計では、すべてを網羅することは極めて困難であった。だが、これまで

に築き上げてきたO.S.P独自のノウハウと、それによって完成された機構を駆使すれば、すべての要求をかなえることは決して不可能な話ではなかった。

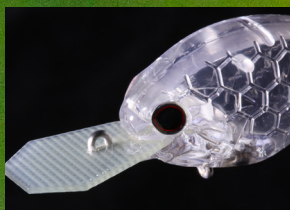
「そのひとつは、重心移動をつけなかったこと。ボディ内部に重心移動のレールがあったら、求める条件をすべて満たすことは不可能でした。なおかつ、ハニカムボディにしたことと低重心のワンウエイトで、速巻き性能とスロー性能を両立。ほかにも飛行姿勢やモノに当たった時の復元力の速さ、泳ぎ出しのよさなどを網羅しました。また基盤リップに関しては、泳ぎのキレや感度、そして回転ピッチの速さをもたらしている。これらの機構って、ただ使えばいいというものではない。ちょっとでもセッティングを間違えると、それら機構を使う価値はゼロになるどころか、マイナスにだってなりかねない。むしろ特異な機構を搭載していない、普通の仕様できっちりセッティング



されているクランクに負けますね」。例えばリップの角度が今より1度でも寝たら、ほぼノー感じなルアーになってしまう。逆にリップを立てるとキャスト時に回転してしまう。リップの角度をキープできたとしても、今度は長さか1mmでも違えば、求めるものと大きくかけ離れることだって珍しくない。すべての

セッティングがビシッと決まっただけで、基盤リップやハニカムボディを使うメリットが生きてくるのだ。そしてそれらすべてがうまく融合したとき、はじめてABSプラグの限界を超えるルアーができるという。

「特にこのタイニーブリッツのように小さなルアーは、



ブリッツシリーズがますます充実される中でその布陣に加えられたのがタイニーブリッツMRだ。小粒のボディに詰め込まれたO.S.P独自の機構は寸分の狂いがない精巧なセッティングによって最大限のポテンシャルを引き出す。あらゆる状況に高次元で対応する頼れる存在。その開発秘話に迫る。



セッティングの許容範囲が狭いため、ちょっとしたズレが大きな誤差につながってしまう。レギュラーサイズのルアーだと、微妙にズレてもボディのサイズでカバーできる部分がありますから。そこは小さいルアーならではの、苦労点でしたね」。

さらに、段階的にセッティングを煮詰めていく中で、新たな苦労点も浮き彫りになった。それは、これまでに経験したことのない、さまざまな条件下でのテスト。

「マッディもクリアでも、スピニングでもベイトでもグラスロッドでも、いろんな使い方がどこでもできるルアーとして開発を進めていく中で、例えばカスミでテストしたと思えば、今度は河口湖でテストしなくてはならない。クリアとマッディでは、泳ぎの見え方が変わってきますよね。使用条件が広ければ広いほど、テストする項目も多岐に渡り、やるべきことが雪だるま式に増えてくる。段階的にスペックを詰めていくので、その都度、それを見なくてはいけない。これはタイニーブリッツMRの開発ではじめて経験した、時間のかかる作業でしたね」。

コンパクトボディゆえ、求められるセッティングは非常にシビア。これまでに培ってきた画期的な機構を殺すことなく、むしろ全長44mmのこのボディにおいて最大限の力を発揮できるように詰め込んだ。



「あくまで私の見解ですが、以前に比べると、ハードベイトで釣れる日というのが、少なくなっていると思う。ハードルアーなり巻き物の釣りが難しくなっているこんな時代だからこそ、威力を発揮するルアーなんだな、と思います」。

ひと月ほど前、バックシートからタイニーブリッツMRで連発されたことで、このルアーの価値と使いどころが改めて明確になった、と開発担当は最後に語った。